

2020年5月7日

「経友」編集後記

松島 齊

昨年経済学部は100周年を迎えました。前号に続き本号も100周年特集です。多くの卒業生からご執筆をいただき熱い一冊に仕上がりました。次号も続きを掲載予定です。経友会は記念講演シリーズも計画していましたが残念ながら中止しました。これは新型コロナウイルス流行のためのやむを得ない措置です。

経済学部は、第二次世界大戦と東大紛争という二つの大きな試練を乗り越えました。しかし、次の100年の船出において、新型コロナという第三の試練にいきなり遭遇してしまいました。この終息にはかなり時間がかかりそうです。

感染拡大を防ぐためには人との接触を避けなければなりません。これは「大学」という生活空間にとって致命的です。そのため教員スタッフは、学生の勉学の機会をいかにして保障するかを日々模索しています。

幸い東京大学は、早いタイミングで対策を打ち出すことができました。卒業式・学位授与式は簡素化され、入学式典は中止し、学外者の構内立ち入りは禁止されました。一方で、新学期は従来の学事歴通りにスタートできました。

大きな変化は、対面授業が禁止されオンライン方式に替わったことです。Zoomに代表されるウェブ会議ツールを活用して、大学に通わず自宅で授業をおこなうことになりました。教員も学生も、マイクやカメラ、教材の画面共有、チャットによる質疑応答などの機能を使いこなせるよう頑張っています。ゼミもオンラインで行います。Zoomにかぎらずさまざまなツールも試してみて、双方向コミュニケーションのよりよい方法を試行錯誤しています。

成績をどのように評価すればいいかなど、問題は山積しています。が、「オンラインだからやれない」という不満はかなり取り除かれそうです。今までできなかったことも見えてきました。しかし、コロナが去った後もオンラインでいいかとなると、それはまだはっきりしません。今言えることは、オンラインは単なる次善策だという先入観はなくなりつつあることです。